

サトウロジックはサプライヤー様とともに

ネットゼロ実現へ。

EVトラックによる直送化 共同配送のご提案

精密機械共同配送で、熊本・九州の半導体物流に貢献



2040 NetZero

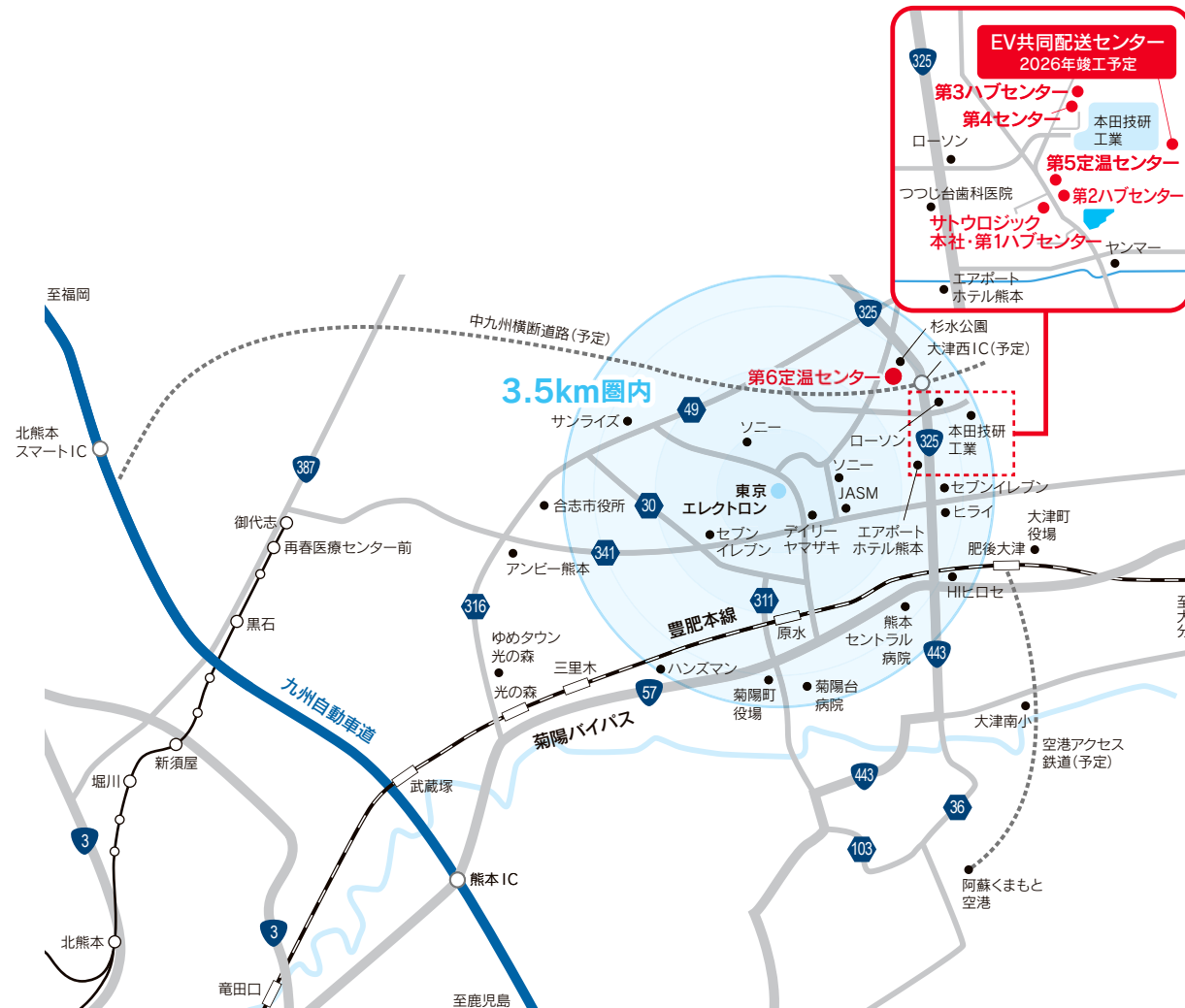


PHASE

2

物流に、イノベーションを。

Innovation for a new era of logistics.



定温・常温倉庫33,000㎡を完備。

共同配送事業を通してCO₂排出量削減を実現し、環境負荷低減に貢献していきます。



SATOH LOGIC

株式会社 サトウロジック

〒869-1236 熊本県菊池郡大津町杉水3739-9
TEL.096-294-0070 FAX.096-294-0050

□ <https://www.satoh-logic.com/>

※掲載写真の一部にイメージ写真を使用しています。

ご相談・お問合せは
TEL.096-294-0070

(担当者:佐藤 康浩)

WEBでのお問い合わせは
www.satoh-logic.com/contact

※お問合せフォームに沿ってご入力いただけます。

お問い合わせ
ご相談など
まずはお電話
ください



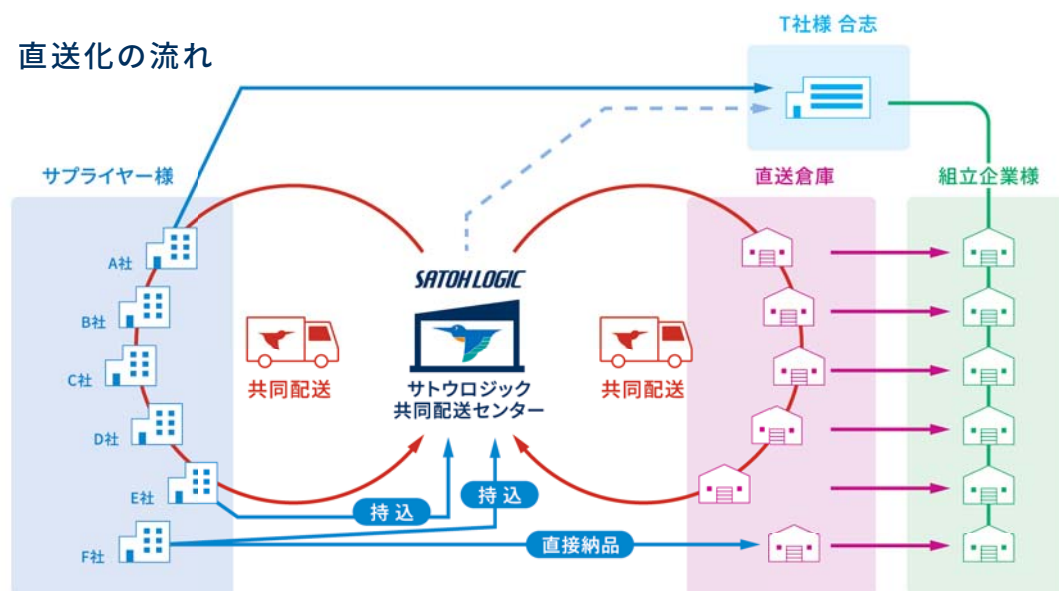
サトウロジックの環境対策フェーズ1。 半導体精密機械の サステナブルな共同配送システムの構築。

美しい地球環境を、未来の子どもたちへ手渡すために。

私たちは、2040年度までにネットゼロを実現し、環境負荷低減に貢献することを重要なミッションとして課されています。

サトウロジックではサプライヤー様73社のご協力のもと、簡易包装や無料貸出によるオリコン、ロール台車等のご利用による共同配送システムを実施。

現在、CO₂を50～70%削減することに成功しています。



共同配送センターより九州内全直送倉庫に納品対応いたします。

サトウロジック共同配送センター 使用実績



※2025年8月現在

2026年、EVトラックを導入し

EV共同配送センター稼働。

サトウロジックの環境対策は、フェーズ2へ。

PHASE 2

2040年ネットゼロを達成するために、

今できることに最大限コミットしていきたい。

サトウロジックでは、2026年1月からEVトラックを順次導入。

同年末には再生可能エネルギーを利用し急速充電設備を備えた

「EV共同配送センター」を竣工予定です。

ここを拠点に熊本エリアのラストマイル配送を

EVトラックで運行します。



2040年 Net Zeroにむけて



EVトラックを導入した共同配送システムで、さらなるCO₂削減に貢献します。

サプライヤー様が納品で発生するCO₂は、お届け先のお客様にとってもスコープ3としてカウントされます。

2040年度までにネットゼロを目指し、環境負荷低減と地球環境保全を重要ミッションに掲げる事業活動において、スコープ3でのCO₂はサプライヤー様のご協力が不可欠です。

2026年にEVトラック導入とEV共同配送センターを稼働させるサトウロジックの共同配送の導入を、この機会にぜひご検討ください。

各スコープの定義と物流との関連

Scope1 (スコープ1)

定義: 企業・組織が自社で所有または管理する施設・車両から直接排出する温室効果ガス (GHG)。

物流との関連: 自社で保有するトラックなどの燃料燃焼による排出などが該当します。

Scope2 (スコープ2)

定義: 企業が他社から購入して使用する電力、熱、蒸気などのエネルギー消費に伴う間接的なGHG排出量。

物流との関連: 物流施設で利用する電力が該当します。

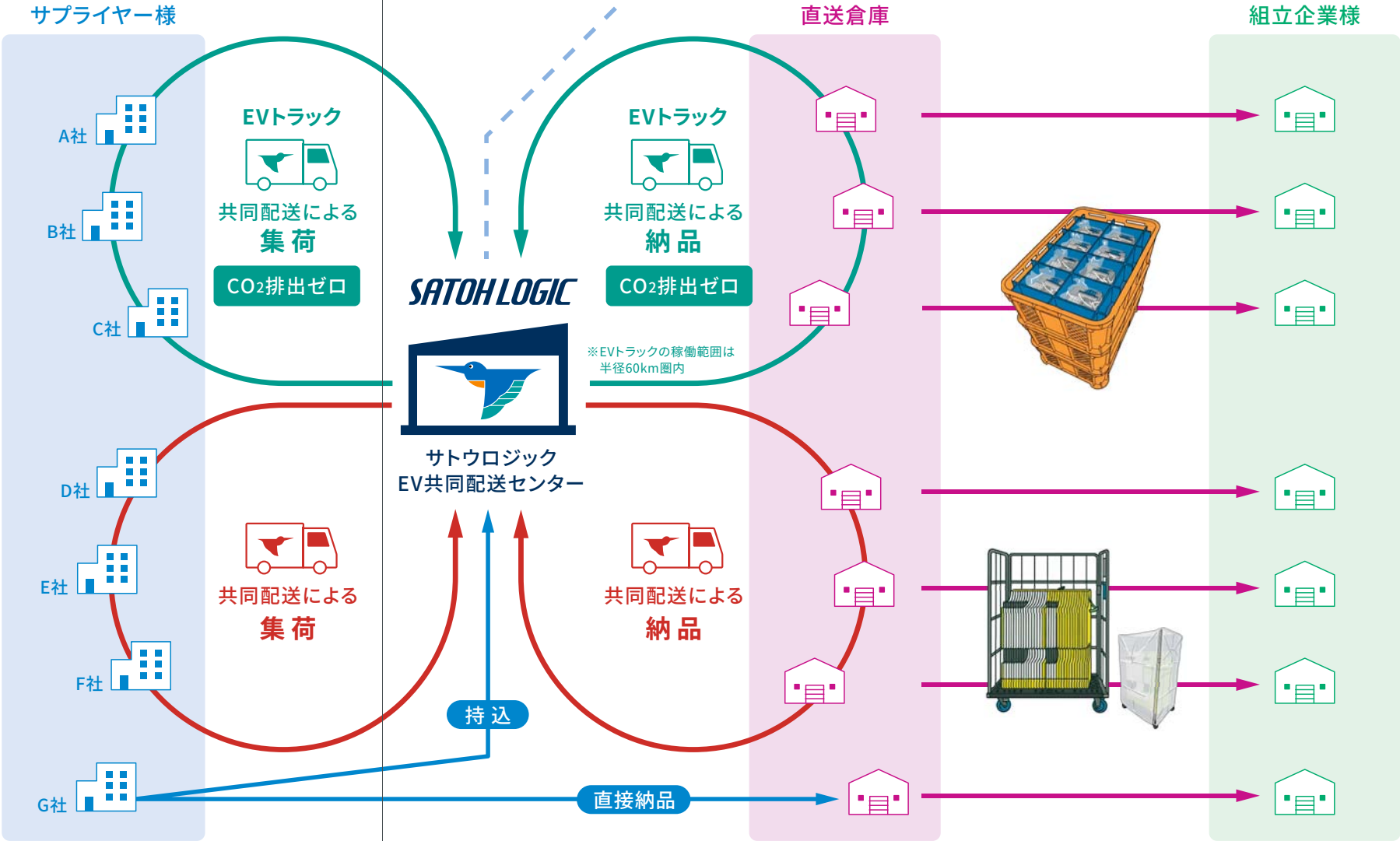
Scope3 (スコープ3)

定義: Scope1、Scope2以外の、サプライチェーン全体 (原材料調達、製造、輸送、使用、廃棄など) で発生する間接的なGHG排出量。物流との関連: 製品の輸送・配送 (上流および下流) が、Scope3カテゴリ4および9に該当し、サプライチェーン全体のGHG排出量を考える上で非常に重要な領域です。

PHASE 2

直送倉庫納品パターン例

- A 共同配送による集荷、センター持込による合志、全直送倉庫納品
- B 遠隔地など一部の直送倉庫納品のみ共同配送利用



EV共同配送センターの

- 1 EVトラック利用でCO₂発生をゼロにします。
- 2 共同配送センター利用で合志納品、直送先納品がワンストップで完結します。
- 3 AM10時までにセンター持ち込みで福岡、佐賀、大分、熊本の直送倉庫当日納品いたします。(鹿児島のみ翌日)
- 4 オリコン、パレット、ロール台車の無料貸し出しにより (回収も無料) 梱包作業や梱包資材の破棄コストを削減します。
- 5 車建て料金と比べオリコン、パレット、ロール台車は、個建て料金となるため売り上げの変動に見合った費用になります。
- 6 納品業務のアウトソーシングにより納品物流コストが明確になります。
- 7 EV共同配送センターに保管、出入庫業務機能があり九州外からのデポとして効率化ができます。
- 8 VEチームのサポートにより梱包業務、開梱業務の効率化ができます。

8つのメリット

売上変動に対応する個建料金例 共同配送料金と形態例

料金形態

熊本県内への納品 (1配送あたり / 税別)

CO₂排出量
(kg-CO₂/ℓ)

熊本県外への納品 (1配送あたり / 税別)

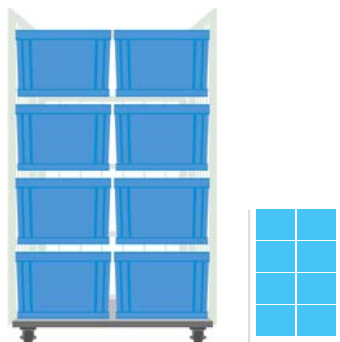
A	ロール台車1台	6,100 円	約2.4
B	ロール台車1/2の物量	3,050 円	約1.2
C	ロール台車1/4の物量	1,525 円	約0.6
D	折りコン大 ロール台車1/8の物量	763 円	約0.3
E	折りコン小・アミコン ロール台車1/16の物量	550 円	約0.15
F	コンテナ(特小) ロール台車1/32の物量	400 円	約0.075

A	ロール台車1台	8,100 円
B	ロール台車1/2の物量	4,050 円
C	ロール台車1/4の物量	2,025 円
D	折りコン大 ロール台車1/8の物量	1,015 円
E	折りコン小・アミコン ロール台車1/16の物量	700 円
F	コンテナ (特小) ロール台車1/32の物量	500 円

折りコン・アミコン・ロール台車は無料で貸し出し、回収料金も無料に対応いたします。

配送形態

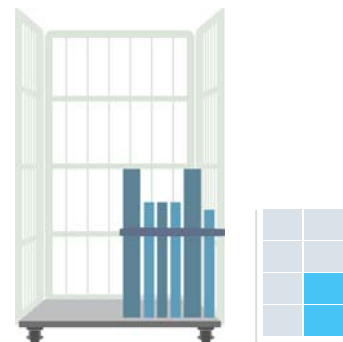
A ロール台車 1/1
(W1100mm×D800mm×H1700mm)



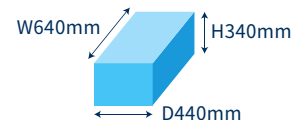
B ロール台車 1/2
(W550mm×D800mm×H1700mm)



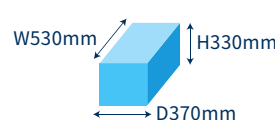
C ロール台車 1/4
(W550mm×D800mm×H850mm)



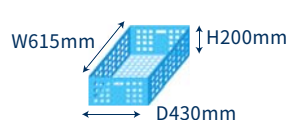
D 折りコン大 ロール台車 1/8



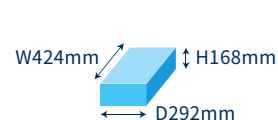
E 折りコン小
ロール台車 1/16



アミコン
ロール台車 1/16



F 折りコン特小
ロール台車 1/32



共同配送による1日のCO₂排出量について

2t車 CO₂排出量(1日)
約**60.5kg-CO₂/ℓ**

1日の走行距離 = 約150Kmの場合
燃費 6.5Km/ℓ

$$150\text{Km} \div 6.5\text{Km}/\ell = 23.1\ell (\text{軽油})$$
$$23.1\ell \times 2.62\text{kg-CO}_2/\ell = 60.5\text{kg-CO}_2/\ell$$

CO₂排出係数(軽油)

CO₂排出量(1日)
約**66.5kg-CO₂/ℓ**

1日の走行距離 = 約150Kmの場合
燃費 5.9Km/ℓ

$$150\text{Km} \div 5.9\text{Km}/\ell = 25.4\ell (\text{軽油})$$
$$25.4\ell \times 2.62\text{kg-CO}_2/\ell = 66.5\text{kg-CO}_2/\ell$$

CO₂排出係数(軽油)


 ロール台車1本当たり
 CO₂排出量 約**2.4kg-CO₂/ℓ**

4t車1台に口ール台車14本載車
 $66.5\text{kg}\cdot\text{CO}_2/\ell \div 2 \text{ (片道)} = 33.25\text{kg}\cdot\text{CO}_2/\ell$
 $33.25\text{kg}\cdot\text{CO}_2/\ell \div 14 = 2.375\text{kg}\cdot\text{CO}_2/\ell$

ローレル台車1本を2t車で CO₂排出量
 持込・直接納品される場合 約**30.25kg-CO₂/ℓ**
 60.5kg-CO₂/ℓ ÷ 2 (片道) = 30.25kg-CO₂/ℓ

共同配送なら
2t車直接納品に比べて
CO₂排出量を

**92%以上
削減!!**

九州管内の 共同配送リードタイム例



**2040年ネットゼロ
実現のためのフェーズ3。
サトウロジックの挑戦は続きます。**

2026年1月に熊本エリアのラストマイルを
EVTトラックで稼働させ
2029年には福岡エリアに拡大させ
九州内の納品物流のネットゼロを目指します。

